



自民党

府議会報告

vol. 58 12月定例会

平成29年度12月補正予算の概要 総額34億7,200万円

道路・河川等の災害復旧

- ◆土木施設の災害復旧 11億円
- ◆農林水産施設の災害復旧 2億円
- ◆河川等災害関連事業 4億円

災害対応力の強化(債務負担行為)

- ◆内水減災対策事業(排水ポンプ車2台整備) 9,000万円
- ◆府立医科大学附属病院精神科病棟の整備 2億300万円

産業の復興支援

- ◆農林漁業者復興支援事業(置綱網の復旧を支援) 9,800万円
- ◆災害救助活動等支援事業(支援物資の提供等を支援) 900万円
- ◆観光にさわい回復事業(連続する大雨の影響対策等) 700万円

職員の給与改定等及び退職手当支給水準の引下げ(追加提案)

- ◆職員給与費(+15.2億円)及び退職手当(▲5.6億円) 9億5,700万円

※台風災害復旧関連予算是、9月補正予算と合わせ100億円超

府議会広報番組

放映予定
(いずれもKBS京都)

本日 12月24日(日) 10時~10時30分
(再放送 12月26日(火)深夜2時05分~2時35分)

新年 1月2日(火) 10時~10時30分
(再放送 1月3日(水) 16時~16時30分)

「府議会cafe京都」(第2回)

今回は府民生活・厚生常任委員会の活動が紹介され、四方源太郎副委員長と尾形賀副委員長のほか、わが会派の委員が出演します。

「府議会cafe京都」特別番組「平成29年新春放談」

村田正治議長が1年を振り返って、新春の抱負を語ります。

政務調査活動

自民党議員団は、皆様の声を府政に反映させるために、各地を調査、各団体との勉強会や意見交換会を行っています。



A 国長野県下最大規模の多機能・多目的型公園である松本平広域公園「信州スカイパーク」の概要について、特に同公園内の総合球技場「アルウェイン」の運営状況について指定管理者・TOY BOXの方々から説明を聴取した後、施設を視察。芝をはじめとする施設の維持管理の方法や費用、Jリーグ開催時の観客の交通アクセスの問題、Jリーグ以外での利用状況についてなど活発な質疑応答がなされた(長野県松本市)



C 株式会社松本山雅FCの概要及びスポーツによるまちづくりや人づくりについて伺った後、意見交換。松本山雅FCは「アルウェイン」をホームスタジアムとしており、2016年のJ2リーグのホーム平均入場者数は13,000人強(長野県松本市)



D 中央葡萄酒株式会社の明野・三澤農場にて、甲州種ワインのブランド戦略や海外展開の取組について調査。世界に通用するワイン産地の確立を目指す山梨県では、2009年に「甲州ワイン輸出プロジェクト」(Kosyu of Japan, KOJ) を発足させ、オール山梨で甲州種ワインを欧州市場に売り込んでいる(山梨県北杜市)



E 3年間で健常寿命が躍進し、男女ともに全国1位となった山梨県の取組について調査。健常寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のこと、厚生労働省が3年に1回、国民生活基礎調査のデータを基に算定している(山梨県甲府市)

勉強会・意見交換会

■京都府私立中学高等学校経営者協会及び京都府私立中学高等学校連合会との意見交換会

■京都市日本保育協会との意見交換会

■一般社団法人京都府建設業協会土木委員会との意見交換会

■森林吸収源対策税制にかかる勉強会

■平成29年度12月補正予算案等に関する政調会6部会での勉強会

■平成30年度政府予算等に関する本府重点要望についての勉強会

12月定例会での質問項目の一部抜粋です。※京都府議会のHP(<http://www.pref.kyoto.jp/gikai/index.html>)で録画中継をご覧ることができます。

12月定例会 代表質問



～京都経済を支える「人づくり」、「産業振興」、「雇用創出」と「基盤整備」～今後の府政について

●新たな京都経済の核となる京都経済センター(仮称)の地域拠点としての予算確保と体制整備の必要性 ●大きな成果を上げている「京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト」終了後(平成31年度以降)も育ち始めた新たな産業の芽を枯らさないための関連政策を継続発展の必要性 ●街づくりやものづくり産業への民間投資促進のための公共事業的重要性 ●府立医科大学の今後のがん医療への取組と京都府立大学の和食文化の保護・継承などに向けての取り組み方 ●今年が最終年度となる保健医療計画に沿った地域包括ケアシステムをはじめとする高齢化社会に対する保健・医療・介護の取組評価と次期保健医療計画の進め方 ●4期16年の山田府政の成果とこれから本府の進むべき方向と知事の所見



LNG基地・ガスパイプラインの誘致を高野川流域の浸水対策事業の早期事業化全国初の森林水源地域の保全条例を！

●本府とアラスカ州は、天然ガス(LNG)に関する情報を交換するためエネルギー資源に関する覚書を締結していることから、京都舞鶴港にLNG基地をつくり、ガスパイプラインを舞鶴市から三田市まで繋ぐことで、災害時のバックアップ機能等に貢献すべき！ ●舞鶴市西地域の市街地では、平成16年台風23号や平成25年台風18号により大きな浸水被害を受けたため、平成27年度に本府と舞鶴市が連携して高野川流域における治水対策協議会を設立し、本年3月に結果が取りまとめられた。一刻も早い治水対策の実現化を！ ●森林水源地域の保全に関する条例については、実効性の高いルール作りが必要。水資源の保全と利活用が両立する配慮が必要と考えるが、具体的にどのような地域に、どのような規制を行うのか。



スタジアム・アリーナ改革の先駆施設IoTプロジェクト活用推進 ICT教育府内産木材の推進 ひきこもり対策

●スタジアム・アリーナ改革の先駆施設 スポーツ観戦だけでなく、市民スポーツ大会・コンサート・物産展等、多様な世代が集う地域の賑わい交流拠点にすべし。 地方創生へのIoTプロジェクトの活用推進 本府における「スマート京都推進プラン」におけるIoTを活用する「地方創生の視点」での取組、「スマートシティ化促進プロジェクト」の今後の方向性は。 ICT教育 13~19歳のスマートフォンの利用率は今や84%。府立学校のICT機器の整備状況と今後のICT機器の整備、ICTを活用した教育の方向性は。 府内産木材の利用促進 現状と具体的な取組はどうか。また、他府県では利用促進の条例化も進んでいるが本府の考えは。 ひきこもり対策 民生児童委員、民間支援団体の実態調査結果をどう受け止め、今後支援に取り組むのか。



東京一極集中からの回避農業の魅力向上と農業地域施策

●東京一極集中回避 ●70年の万博期に始まった交通インフラ整備によって東京一極集中が始まると見えるが、同じ轍を踏まないためにも、その要因をどのように捉えているのか。 ●リニア中央新幹線開通により、東京・関西が一つの経済圏になるため、今後の地域づくりは首都圏との融合という視点が必要では。 ●東京一極集中打破のためには、東京圏に人口減少ビジョンを策定させるべき。 農業の魅力向上と農業地域施策 ●スマート農業導入に向けた方策は。 ●農家と技術開発者をつなぐスマート農業導入へ向けての方策は。 ●農業の活性化のためには、農業経営体集約化を図り、数を絞って他産業と同等の分配をすることが重要。 ●農業地域振興のためには、農業施策の柱を農業人口の維持から魅力ある小都市の創造に転換すべし。



①伝統産業、特に和装産業の振興について②障害児スポーツの振興について③自転車マナーの向上について

●和装産業の振興について 今まで800件を超える生産基盤の強化に努めてこられたが、その効果をどう評価され、今後どのように取り組むのか。 ●簡単に、感動的に、習慣的に着られるとして「カンキリきもの」の開発に取り組まれているがどのようなものか。 ●障害児スポーツの振興について 障害者スポーツやレクリエーション活動の指導者養成や活動場所の確保への取組は。 ●障害児等が参加するスポーツ大会やレクリエーション活動の活動内容を府民へ周知を強化し、共に参加する機会を増やすべきと考える。 ●自転車マナーの向上について 本年中、府警察が中心となって実施した自転車安全利用への取組は。 「京都市自転車安全利用企業制度」の指定事業所の指定状況はいかほどか、各企業の取組状況はいかがか。



「全身の健康は、歯と口の健康から」との認識のもと、健康長寿につながる各種取組のさらなる推進と充実を!!

●子ども達のむし歯予防に効果大なフッ化物塗布やフッ化物洗口の全市町村での早期実施。歯科衛生士や歯科技工士の人材確保や再就業への支援、歯科医師会等のご尽力により好評の障がい者の歯科治療について府としても取り組む必要があるのでは。学校でのマウスガードや外傷歯保存液の普及・常設と、安全な授業実施を要望。 ●京都式地ビニス「ちーびず」の新たな展開として企業や大学等多様な主体との協働や連携を深め、府内各地の良さを活かした地元ガイドによる体験・交流まち歩き「ちーたび」を、もっと府内隅々まで広がるような取組の推進を。 ●税金や府営住宅の家賃、各種貸付金等の未収債権の回収について京都地方税機構の活用と、より実効性ある方策や民法改正への対応を。



1. 明治150年について 2. 文化庁の移転を契機とした文化振興策について 3. 府立鴨沂高校の教育について

●150年前の東京奠都により火の消えた京都において、歴代知事がどのような先進的な施策により活を取り戻し、その後、試練を乗り越えてきたかを振り返り、「グローバル化」や「東京一極集中」「少子高齢化」等の課題が山積し、平成の時代も変わろうとしている今、知事はどのような思いを抱き、次の世代に何を伝えようとしているのかについて伺いました。 ●地域文化創生本部が設置され、シンボジウムなどの機運醸成活動により府民に周知されてきたが、今後は移転の意義を示す段階だ。 来年は文化創設50周年、府門開150年、明治150年の節目に当たり、今後の文化首都・京都の実現に向けた取組を伺いました。 ●現在、校舎改築中の府立鴨沂高校の教育に問い合わせました。



お茶の京都の今後の展開について問う 民泊は地域に応じた柔軟な活用を! 府庁内のICT化による働き方改革を提案

お茶の京都ターゲットイヤーで整備された「普賢寺ふれあいの駅」、日本遺産「永谷宗円生家」などの拠点を今後どのように地域創生に繋げるのかを質し、山田知事は「茶葉研究会企画・大学・茶農家・茶匠と連携し、宇治茶関連商品の開発や地域とタイアップさせる。宇治茶アカデミーで扱い手の育成も行っていく」と答弁。民泊を地域振興へ活用する提案に対しては、生活環境の悪化を防ぐため各市町村の意見を聞いてから制限区域などは決めていく。優良な宿泊施設を認証し、地域との調和を図りながら観光振興に繋げないと答弁されました。 その他の質問に府庁内のICT化による仕事の効率化や働き方改革の提案 ○警察署と地域団体との連携強化について警察本部長に質問しました。



文化の力(文化力)を経済・産業に結びつけ、地域の活性化を!!

●「文化力による京都活性化条例」の改正について 条例改正に当たっては、文化力を経済・産業に結びつけて地域の発展につなげるという発想が必要。特に生活の中で大きな広がりを見せるカルチャーに焦点を当て、明確に条例に位置づけるべき。 ●地域創生について 施策を積極的に展開しているが、定住人口の増加に結びついていない。その町に何らかの形で関わりを持った人々である「関係人口」をネットワーク化し、地域活性化に活かすべき。 ●人口減少・超高齢化社会について 確実にやってくる人口減少・超高齢化社会に対応できるよう社会の仕組みを変え、ソフトランディングを図る施策を展開すべき。



皆様の声を府政に届けるため、28名全力で頑張っています!!

私たちに、ご意見・ご要望をお聞かせください。

自民党京都府議会議員団 ☎075-414-5555

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入ル蔵ノ内町 京都府議会棟内 FAX 075-414-5563
<http://www.jimin-kyotofukai.com> Eメール office@jimin-kyotofukai.com